



まきび連携だより

H30年度
第2号

発行：まきび地域学校協働本部 事務局

第3回まきび地域学校協働本部運営会が3月8日に開催され、一年間の活動のまとめをしました。地域委員の皆様もお忙しい中、全員参加してくださり、活動へのアドバイスをいただきました。被災によって年度当初計画していた活動が十分にはできませんでしたが、今の状況だからできる活動、今やらなければいけない活動に取り組むことができていることを確認しました。来年度は、今年度以上に地域に貢献できることをめざしていきたいと考えています。



今年度の主な取組

まきび公園 他 清掃実習



高等部職業コースフードサービス班の生徒が、地域の清掃ボランティアの方と協力して、まきび公園のトイレの清掃、まきび茶屋の窓ガラスの清掃、資料館、茶室の清掃を行いました。半日の活動でしたが、生徒達が頑張っている様子を地域の人達に見ていただくことができました。また、綺麗になったと感謝していただきました。

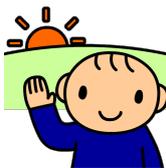


また、高等部職業コースの環境サービス班の生徒が定期的に吉備真備駅や真備支所の清掃実習をしています。清掃をする体験を重ねることで、生徒の技術も向上するとともに地域の人たちに喜んでいただける活動になっています。また、地域委員の方から清掃場所のリクエストもいただきました。来年度も取り組んでいきたいと思っています。さらに生活コースの生徒達の活動できる場所や小学部・中学部の児童生徒の取り組むことができるような活動や場所を捜しています。

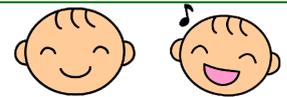


見守り活動

スクラム隊の方々が、毎日登下校の見守りをしてくださいました。声をかけていただくことで、鉄道通学の生徒達もあいさつがよくできるようになってきました。また、見守ってもらっていることで、安心して通学ができています。先日は、代表の生徒が手作りのプレゼントを渡し、見守っていただいているお礼の気持ちを伝えました。



出張うさぎカフェ



子ども達は被災後各校地に分かれていますが、保護者がお互いに情報交換をしたり、悩みを相談したりすることができる機会として、福祉関係の方に協力をさせていただいて開催をしました。



参加者の被災による心的・物的に不安定な生活状況による悩みに寄り添うことを優先し、アイスブレイクタイムや手作りのお菓子で、和やかな空気感を作るように心掛けたり、生活年齢の近い小グループに分けたことにより、話が弾みお互いに悩みを相談することができました。

被災に関連した悩みも寄せられましたが、身辺自立や卒業後の生活についての悩みなども話し合われました。来年度も計画をしていますので、たくさん人に参加していただきたいと思います。

学習支援ボランティア

くらしき作陽大学から16日間にわたり、のべ52人の学生がボランティアに来てくれました。授業の手伝いや、児童の



見守りなどの学習支援を行っていただきました。授業の補助をしていただくことで、個別指導をすることができ、学習の定着が見られました。児童生徒の見守りなどもしていただいたおかげで、日常生活の指導も個別にすることができたため、定着も図れると共に安心して指導ができました。

また、学生以外にも学習支援やゲストティーチャーとしてたくさんのボランティアの方に授業に参加していただきました。